



四万十源流

[題字] 議長 市川 岩亀

頌春

令和五年



- 敷地整備費用を含む補正予算を全会一致で可決
～雲の上のホテル等跡地整備着手まで有効活用する～
- 一般質問 高齢者の不安解消に尽力せよ
- 委員会報告 高校の存続を町民と共に早急に議論せよ
- 議会にもデジタル化がやってきました!



昨年暮れに降った大雪を雪かきする梶原高校生

令和五年
謹賀新年



中越議員



西川（慶）副議長



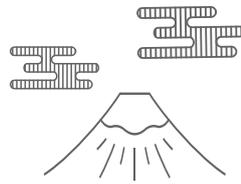
市川議長



西川（豊）議員



下元議員



初春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 本年も皆様にとって輝かしい年になりますよう
 ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和五年 元旦

議会議長 市川 岩亀



森田議員



土釜議員

- 委員長 中越 計清
- 副委員長 下元 秀俊
- 委員 森田 呂弥
- 委員 西川 豊正
- 委員 土釜 清
- オブザーバー 市川 岩亀
- オブザーバー 西川 慶男

(5人)

議会運営委員会

- 議長 市川 岩亀
- 副議長 西川 慶男

梶原町議会

事務局
 局長 市大 美奈
 書記 藤井 誠子

事務局

- 委員長 土釜 清
- 副委員長 下元 秀俊
- 委員 森田 呂弥
- 委員 西川 豊正
- 委員 中越 計清
- 委員 西川 慶男

(6人)

議会広報編集委員会

- 委員長 西川 豊正
- 副委員長 中越 計清
- 委員 下元 秀俊
- 委員 市川 岩亀

(4人)

産業建設常任委員会

- 委員長 下元 秀俊
- 副委員長 森田 呂弥
- 委員 土釜 清
- 委員 中越 計清
- 委員 西川 慶男

総務教育厚生常任委員会

(5人)

議会の活動が3分でわかる！ 12月定例会クローズUP

【開催期間】
2022年
12/14(水)～16(金)

● 12月定例会議案審議

P5 補正予算・条例・報告事項

雲の上のホテル等跡地整備着手まで有効活用する
敷地整備費用を含む補正予算を全会一致で可決

その他

● 一般質問

P8 「高齢者の不安解消に尽力せよ」

〈質問者〉西川 慶男

P9 「梶原の観光資源を生かした誘客と
太郎川再生計画をどうする」

〈質問者〉西川 豊正

P10 どんなホテルにするのか？

〈質問者〉下元 秀俊

● 委員会報告

P11 森林所有者が森林経営に意欲を持てる
長期的な施策を！

〈報告者〉西川 豊正

P12 高校の存続を町民と共に早急に議論せよ

〈報告者〉下元 秀俊

P14 議会にもデジタル化がやってきました！



表紙写真の紹介



四万川区にある海津見神社から見た初日の出。昨年暮れには大雪となったが元旦は晴天に恵まれ明るい年明けとなった。

行政報告



町長は、令和4年9月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。(抜粋)

● 総務課関係

中越久市氏(元梶原町議会議員)
旭日単光章(地方自治功勞)受章

中越氏は、昭和50年5月に町議会議員に当選以来連続5期20年の長きにわたり町議会議員として活躍され、副議長や各常任委員会副委員長などを歴任。特に産業振興発展、教育文化の振興、福祉の向上にご尽力された功績が認められた。



● 企画財政課関係

再生可能エネルギー推進協議会
について



委員と事務局で地域新電力事業に関する視察のため静岡県浜松新電力を訪問

● まちづくり推進課関係

集落活動センターについて



岡崎県新見市で養殖事業デジタル化先進地視察を行う集落活動センターおちめんのメンバー

● 保健福祉課関係

第3回雲の上のじいろ



雲の上の図書館で開催されたアート展

● 森林の文化創造推進課関係

地域おこし協力隊について



10月1日に委嘱書を交付された荒木俊充氏

● 生涯学習課関係

令和4年度高知県スポーツ推進委員功勞者表彰について



表彰された西村俊二氏

12月定例会
(議案審議)

1 補正予算

一般会計補正予算(第4号)

雲の上のホテル等跡地整備着手まで有効活用する
敷地整備費用を含む補正予算を全会一致で可決

主な補正内容は、

● 共通内容

人事院勧告に基づく職員の給与改正による給料月額、勤勉手当支給率の改定と、異動等に伴う費用間会計間調整、価格高騰による各施設の燃料・電気料等の光熱水費の調整。

● 総務費

行政無線局の修繕料 他

● 民生費

人件費の調整等による国保会計繰出金 他

● 衛生費

申請件数の増による寒暖差の少ない住まい改修事業補助金、台風14号で被災した各地域で管理する飲料水供給施設への補助金 他

● 農林水産業費

せまち直し等の農業基盤整備等事業補助金の申請件数の増、受託事業の配分による育林事業委託料

● 商工費

雲の上のホテル・レストラン跡地において新しい施設整備に着手するまでの間多目的に有効活用するための敷地整備にかかる工事請負

● 土木費

飯母浄化センターの光熱水費及び監視システムの修繕料の追加による下水道事業会計繰出金、橋梁、トンネル修繕及び町道舗装工事の事業確定による測量試験委託料 他

● 消防費

全国消防操法大会参加等の実績による助成金 他

● 教育費

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった中学生海外研修負担金 他

● 災害復旧費

台風4号で被害を受けた林道2件の復旧にかかる工事請負費及び事務費 他

● 公債費

地方債の借入額及び利率の確定による長期債利子の増額

● 支出金

梶原町町有林事業基金他全4つの基金条例の

廃止に伴う森水基金積立金 他

総額5千748万4千円を減額し総額を68億6千5万3千円とするもの。

可決 全員賛成

Q

2款総務費について、自治体デジタル化を推進し、A-Iを活用して予算編成作業を行うということであるが、A-Iを活用することで編成作業がどのように効率化するのか？

下元 秀俊

A

総合振興計画や公共施設の管理計画等を連動させることでA-Iが判断し予算編成で活用できる。国・県の補助事業の活用と確保に有効で、効率的である。

企画財政課長

Q

商工費・観光開発費について、旧役場庁舎は現在歴史民俗資料館から入場料を支払って入ることができているが、入場料を支払う必要があるのか。

下元 秀俊

A

旧役場庁舎は、歴史民俗資料館の別館として位置づけられており、入場料をいたなくことになっている。

生涯学習課長

専決処分（一般会計補正予算（第3号））

国からの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の追加交付を受け、新型コロナウイルス対策について令和4年11月7日付けで専決処分したもので、7千721万6千円を追加し総額を69億1千753万7千円とするもの。

可決 全員賛成

Q 西川 慶男

各種支援や補助金の事務手続きを簡素化し、懇切丁寧に対応すべきではないか。

A 町長

様々な給付金があり事務手続きが不安にならないよう留意していく。

Q 西川 慶男

光ファイバーの線が支障木の影響により断線の危険性が生じている。現在は町外の業者に依頼しているが、地元業者に依頼する等、早急にその方法を検討すべきではないか。

A 総務課長

支障木の下狩りは現在も行っており、地元業者への依頼については今後検討をする。

2 条例

- 職員の定年等に関する条例の一部改正について
- 地方公務員法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例について
- 一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について

地方公務員法の改正等を踏まえ、令和5年4月1日から職員の定年を60歳から65歳まで段階的に引き上げることに伴う所要の改正を行うもの。

可決 全員賛成

会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

会計年度任用職員に適用する給料表等について、採用となった年度の4月1日に施行されている給与条例を基準とすることを附則で定めるもの。

可決 全員賛成

梶原町森と水の文化のまちづくり基金設置条例の一部改正について

決算審査において監査委員からの意見に基づいて検討し、梶原町町有林事業基金他全4つの基金において梶原町森と水の文化のまちづくり基金に編入し、各種事業への処分を第6条に追加し有効的に活用しようとするもの。

可決 全員賛成

梶原町地域活動拠点施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

新たな防災拠点として今年度建設した坪野田地域活動拠点施設を追加するもの。

可決 全員賛成

上成文化交流館の設置及び管理に関する条例の廃止について

令和3年度に上成地域活動拠点施設が建設されたことに伴い、今年度上成文化交流館の取り壊しを行ったため本条例を廃止するもの。

可決 全員賛成

3 その他

財産の取得について

昭和32年2月28日付で四国森林管理局と公有林野等官行造林地契約を締結し、町有地に造林された官行造林地の立木について、森林の適正な保全及び良質な水源の確保に資することを目的とし、国の持分を買い取ることにについて、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき、議会の議決をお願いするもの。

可決

全員賛成

Q

西川 慶男

町内の造林組合から分収林の処分をしたいと数年前から話があるが、町においては積極的に取り組んでいくことが必要ではないか。

A

森林の文化創造推進課長

分収造林については計画的に処分をしていきたい。町内には全体で1千300ヘクタールを超える造林地があるため、時間を要する場合もあるが必ず成し遂げられるよう進めていきたい。

Q

中越 計清

本議案及び森林整備に賛成である。契約地の下には川井地域の生活用水の水源地がある。間伐作業及び作業道2kmの新設にあたっては、濁水対策に十分に注意し、約70haの間伐材の搬出と運搬には林道の路盤整備を行い住民の通行に支障がないよう取り組むべきである。

A

森林の文化創造推進課長

水源地であることを承知しており、作業道新設を含め間伐作業も充分気を付けて実施し、事業者にも指導をする。また、林道整備については現地を確認させていただき支障がないよう取り組んでいく。

- 梶原町四万川区辺地総合整備計画の策定について
- 梶原町東区1辺地総合整備計画の策定について
- 梶原町初瀬区辺地総合整備計画の策定について
- 梶原町越知区辺地総合整備計画の変更について
- 梶原町西区1辺地総合整備計画の変更について
- 梶原町松原区辺地総合整備計画の変更について

計画の策定及び変更をすることにより、今年度以降の「辺地対策事業債」の発行を可能とし、財源の確保を図るもので、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条の規定により議会の議決をお願いするもの。

可決

全員賛成

教育委員の任命につき 同意を求めることについて

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定に基づき、議会の同意を求めらるもの。

同意

全員賛成

住所 梶原町上成
氏名 森山 美幸
期間 令和5年1月1日～令和8年12月31日



教育委員に任命された
森山 美幸氏

4

報告事項

● 専決処分の報告について

(工事請負契約の変更)

令和4年度 防災・安全社会資本整備交付金事業
第1-A・76・020号 町道初瀬東西線 法面改良工事

議案一覧と議員賛否状況

私は ○ × です



12月 定例会(第366回)

(賛成○、反対×、議長は裁決に加わらない)

議案 番号	議 案 名	審 議 結 果	1	2	3	5	6	7	8
			森 田 呂 弥	西 川 豊 正	下 元 秀 俊	土 釜 清	市 川 岩 亀	中 越 計 清	西 川 慶 男
第 50 号	専決処分の承認を求めることについて (令和4年度高知県高岡郡梶原町一般会計補正予算(第3号))	承認	○	○	○	○	-	○	○
第 51 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町一般会計補正予算(第4号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 52 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町立松原診療所特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 53 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町立四万川診療所特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 54 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 55 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 56 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 57 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 58 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町下水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 59 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町病院事業会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 60 号	令和4年度高知県高岡郡梶原町給与等集中管理特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 61 号	職員の定年等に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 62 号	地方公務員法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 63 号	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 64 号	会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 65 号	梶原町森と水の文化のまちづくり基金設置条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 66 号	梶原町地域活動拠点施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 67 号	上成文化交流館の設置及び管理に関する条例の廃止について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 68 号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 69 号	梶原町四万川区辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 70 号	梶原町東区1辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 71 号	梶原町初瀬区辺地総合整備計画の策定について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 72 号	梶原町越知面区辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 73 号	梶原町西区1辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 74 号	梶原町松原区辺地総合整備計画の変更について	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 75 号	工事請負契約変更について (令和4年度 防災・安全社会資本整備交付金事業 第1-A76-022号 町道川井仲久保線 法面改良工事)	可決	○	○	○	○	-	○	○
第 76 号	教育委員の任命につき同意を求めることについて(森山美幸)	同意	○	○	○	○	-	○	○

一般質問

西川 慶男 議員

「高齢者の不安解消に 尽力せよ」



町長

「関係機関と協力し
取り組んでいく」



高齢者福祉の充実について

Q 11月末現在の高齢化率が約47%となっている。高齢者が安心して住める町づくり構築に、積極的に取り組む必要がある。

A 第8期橋原町高齢者福祉計画・介護保険事業計画の現状の取り組みと状況、今後の取り組み、また橋原町の健康長寿構想について問う。

町長

Q 人生百年時代と言われる中で、健康で様々な社会活動に参加し交流することで、日々の暮らしで感じる不安や孤独感を解消し、安心して暮らしていただけを目指している。

福祉施設入所待ちについて

Q 高齢者が、自分で動けなくなった時にスムーズに施設等に入所できれば安心であると思うが考えを問う。

保健福祉課長

A 在宅生活での支援や施設入所が必要になった方に必要なサービスが行き届くよう、介護従事者の確保やヘルパーの養成にとりくみたい。

冬季期間における入所施設受入拡大の取り組みについて

Q 冬季は高齢者の体調が変化しやすい。町内の施設を活用できれば町外にいる家族が安心すると思うが、施設の拡大への取り組みが必ずではないか。

保健福祉課長

A 冬季期間中の受入可能な施設は保健福祉支援センターの2階に8室、ゆるりに18室20床あり、1年間で半年という期限はあるが冬場の積雪等で不安な場合は利用いただいている。現在は受入可能な状態で、今後も利用が増える見込みはないため拡大の措置は考えていない。

振り込め詐欺を未然に防止する策について

Q 町内でも被害にあわないよう行政として対応すべきである。

保健福祉課長

A 被害の情報があれば即、行政放送で注意喚起しており、広報や回覧への掲載や地域での集まりでも啓発を行なっている。

障がい者福祉の充実について

Q 障がいのあるなしに関わらず皆が幸せに暮らせるまちづくりを目指し、特

に障がい者が安心して生活するために、就労に対する収益を就労者へ還元できるような仕組みづくりをしてはどうか。

町長

A 誰もが幸せに暮らせる社会を作っていくことが重要であると考える。農福連携等、何らかの職場づくりができるよう母体となる組織づくりをしている。

町内における公衆トイレについて

Q ゆすはら座や町内各所のトイレ改修、また公衆トイレの設置を検討せよ。

生涯学習課長

A ゆすはら座横の町有雑地の利用状況によっては現在ある外トイレを移動させることも必要となってくることから、早急に方向性を決め検討する。

産業振興課長

A 本町を訪れる方々へのおもてなしという観点では、各所に公衆トイレがあるのは理想であるが、現時点では既存のトイレを気持ちよく利用してもらえよう適切な維持管理を行い、今後公衆トイレを設置する必要が生じた場合には、様々な調査や基準を明確にして検討していく。

通学路の検討について

Q 飯母方面から通学路として利用されている飯母第一トンネルは、手すりは設置されているもの通行量も多く危険な状況である。トンネルの旧道を安全対策を講じて通学路として検討すべきではないか。

生涯学習課長

A 旧道は手すり等がない区間もあり、山手側からの落石や防犯面からも小さなお子様が歩いて通学するには見守りの目が少なく不安を感じるなど課題が多く、通学路としては現在のコースが安全であると考える。



高齢者の安心安全な生活を守るのは町の責務

一般質問

「梶原の観光資源を生かした誘客と太郎川再生計画をどうする」

西川 豊正 議員

町長

「太郎川公園の再生なくして町の未来はない」



Q 太郎川公園を含めた大規模整備計画について、やるか、やらないか、明確な回答をいただきたい。

町長

A 新たなホテルと道の駅は建築する。

太郎川公園の再生なくして梶原町の未来はないとまで思っている。今やらないといけない。太郎川公園の再生は産業のチャンスに加えて、人の流れができて人口の流出を抑制し、新たな観光産業を生み出す。観光の成果が町民の生活に良い影響を与え、町民の生活が良いと観光にもいい影響を与えていく。また、公園だけでなくホテルがあることから観光客が町内に滞在し、町内全体に利益が生まれる。

そして森林率91%の本町ならではの木造建築を考えた際に新しい設計を頼むのはやはり隈研吾氏以外にいないと思っている。

昔の太郎川公園は3世代交流ができ、赤ちゃんからお年寄りまで笑顔があふれる場所だった。家族や友人との楽しい時間

を過ごし、絆を深める場、都市との交流の場、森林の文化を身近に感じられる場とすることが太郎川公園の初期の成り立ちであったと思う。

立ち止まった今だからこそ、今一度本町の未来の再生を実現させる事を決意した。今を生きる私達自身が、生きがいや幸福感を感じ、笑顔であふれる町にしていく。

しかし、私や行政職員だけでは到底実現することができない。皆さんのお力が必要であり、関わっていただきたいと考えている。観光産業に結び付き、町民の幸せにつながることを目指す。

森を学び森に親しむ、星を学び時の流れに思いをはせる。人と人とのつながりや、人と自然のつながりを取り戻し、心と体を解き放つ、そんな町でありたいと考えている。

4月以降、企画財政課を中心に太郎川公園再生に向けての基本構想の策定に取り組んでいる。木の里梶原にふさわしい木造を基本とした宿泊施設とレストラン、道の駅の計画を含んでいる。現在、高知県の支援

をいただきながら構想をまとめており、並行して国の事業により未来につながる遺産としての可能性の調査を行っていた。

今後、基本計画や基本設計を行う中で詳細については変動すると思われるが、将来にわたり町民の皆さんが自信と誇りを感じ、心豊かな暮らしを送るために役立つ施設となるとなるよう取り組んでいく。



今後の太郎川公園の再生が待ち遠しい

Q 再度確認する。ホテル建設を含めた太郎川公園の大規模整備計画をやるのか。

町長

やる。

Q ホテル、レストラン、道の駅全て同時に建設は長期化の要因となる。優先順位をつけて道の駅を先に建てるべきではないか。

町長

A 道の駅は、様々な面で必要不可欠な施設であると考えており、計画の中に含んでいる。そして、出荷していただける農産物や加工品を作っていただけのように道の駅準備室を立ち上げ、開業に向けて、集出荷体制を含む基盤整備をしているところである。

一般質問

「どんなホテルにするのか」

下元 秀俊 議員



町長

「木の里に相応しい『百年の宿』をつくりたい」



雲の上のホテルについて

Q 令和4年3月議会において計画の見直しを明言した。議会特別委員会、再生委員会、町民の意見をふまえて検討してきていると考えるが、現在の進捗状況と方向性を問う。

A 町長

太郎川再生計画の中心事業として企画財政課でこれまで検討してきたとおり、基本構想が12月末には策定できる予定である。「木の里構原」にふさわしい、木造を主体とした上質な宿泊施設として町民が誇れるホテルを作っていく。基本構想が出来上がれば議会、町民のみなさんにも示しながら進めていく。

Q これまでの提言をどのように活かしていくこととするのか。

A 町長

町内の木材を利用し「百年の宿」といえるような町民が誇れるホテルを作りたい。まだ検討中であるが拠点としてのホテルの部屋として12室と離れを5棟ほどの木造で検討している。木造にすることで必要に応じて改築、増築ができるようにしていきたい。また、将来的に、サテライト、民宿、新たな宿な

ども連携を取りながら町全域で広がっていくように取り組んでいきたい。

Q 財源についての考えは。

A 町長

国のモデル事業、県の補助事業の活用、有利な起債、ファンド、企業版ふるさと納税、クラウドファンディングなど様々な手法を活用して取り組んでいく。

観光協会について

Q 現在の体制の見直しと新たな組織の協議が必要である。真に観光にかかわっている方々を中心に今後の観光交流の在り方を協議していくことを提案する。

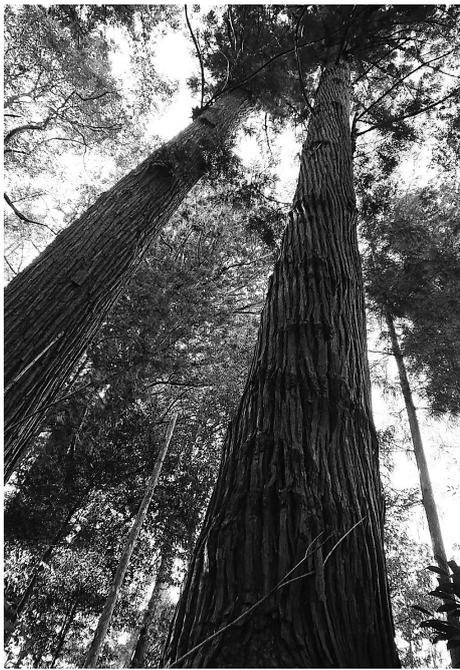
A 町長

現在理事会の中でも協議をしてもらっている。今後、観光協会の本来の活動である、観光資源の発掘、商品開発、ブランディング、情報発信などの活動が活発になるように進めていく。また、多様な分野の方々にも参加いただき町づくり全体を支える産業としてとらえて進めていく。組織体制の見直しは令和5年度に検討していく。

Q 観光協会の財源は町からの委託料に頼っているが、今後の町の財政も厳しくなってくる。自立に向けての財源を考えていく必要があるのではないか。

A 町長

観光協会の財源は町からの委託料に頼っているが、今後の町の財政も厳しくなってくる。自立に向けての財源を考えていく必要があるのではないか。



百年の木は今の私達に大切なことを教えてくれる

高齢化による問題について

お客様の手数料や、旅行業の資格を取っての手数料などの収入や、企業版ふるさと納税など将来にむけ収入を増やしていきたい。本町の地球環境への取り組みなどPRもしながら企業からも支援をいただけるように情報発信にも力を入れていく。

Q 急速な高齢化の進行によって認知機能の低下による行方不明者は今後さらに増加が予測され、見守り機能の見直しや発信機の貸与など対策も必要である。

当事者だけでなく、地域の共通理解として、共有していくことが大切である。不明後20分探して見つからなければ捜索依頼を躊躇なくできるような共通理解が必要と考える。リーダーシップを発揮して議論を進めてもらいたい。

A 町長

地域で見守ることを基本に取り組んできているが、コミュニティバス、の導入、人が集まることも見守り機能につながる。機器の支援もしていくが、他人事ではなく、自分のこととして意識してもらえようように議論し、共有してもらえよう進めていく。

委員会報告

産業建設委員会 委員長 西川 豊正
常任委員

構成委員

副委員長 中越 計
委員 下元 秀
委員 市川 俊
委員 岩 亀

「森林所有者が森林経営に意欲を持てる長期的な施策を！」

町の森林づくりに
ついて活発に議論
を交わした



調査の目的

本町は、戦後の木材需要の高まりにより伐採跡地への植林を推進してきた。次世代につながる森林づくりを支援していくために、平成31年度に森林の文化創造推進室を立ち上げ、令和2年度には森林の文化創造推進課を設置し、林業の振興に取り組んでいる。過疎・高齢化が進む本町では、林業の後継者不足という重大な問題に直面している。これまで、木材価格の長期低迷が林業従事者の減少に大きな影響を及ぼしていたが、近年のコロナウイルス感染症による社会の変化やロシアのウクライナ侵攻の影響により、国産材の利用価値が見直されている。しかし、本町の森林の現状は、木材の蓄積量は増大しているにもかかわらず、林業従事者不足により伐採期を迎えた森林を伐採搬出するだけの十分な労働力の確保が難しい状況にあり、先人が鍬と苗木を担ぎ、道なき道を登り、守り育ててきた大切な森林を、十分に活かすことができなないことはもどかしい状況である。

当委員会では、このような状況を踏まえ、本町の森林づくりに関する取り組みの現状

を把握するとともに、課題解決に向けて共に思考するため、本調査を実施するものである。

調査の内容

梶原町森林組合、役場担当課に出席を求め、本町における森林づくりの取り組み、人材育成、今後の森林づくりの方針、木質バイオマス利用への取り組み等について説明を受けた。

平成31年度に森林の文化創造推進室において、町内全戸を対象に「森林づくりアンケート調査」を行っている。その中で、「森林を所有する目的について」という設問には年齢が高いほど「財産」が多く、年齢が低くなるほど「目的や関心がない」と回答した方が多いという結果であった。今後、本町における持続可能な森林づくりを行うためには、次世代へのアプローチが必要不可欠であるという結論に至った。さらには、持続可能で豊かな森林づくりを進めるためには、生態系、経済性、技術面など、同時に取り組む必要がある。中でも林業従事者の確保、育成、定着が喫緊の課題である。

本町で林業技術者の育成を目的として、梶原令和の森林づくり協議会「REMORI」を組織し地域おこし協力隊を

雇用、地域との交流や森林の全ての従事者として経験や資格取得を目指して、5年後までに新規就業者を合計20人育成することを目標に掲げ取り組んでいる。

また、収益の向上や私有林の整備促進を行うため、町有林を軸とした団地化に取り組んでいる。今後、分取造林地の分取権の買取による町直営化の加速、さらにはその利益を町内で循環させるなど、地域経済への貢献を考慮しながら森林整備を進めていくことが重要である。

次に、現在人工林面積の約7割が針葉樹であることから、針葉樹の森林を広葉樹に転換するなど、景観林の見直しを行い、将来多様な姿の森林となるよう取り組みがされており、景観林の造成や交流人口の拡大へと繋がっている事例について報告があった。

梶原町森林組合の森山組合長からは、組合の事業概要及び決算状況等について報告を受けた。令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大により木材価格が下落し赤字となったが、令和3年にはロシアによるウクライナ侵攻の影響で世界情勢の変化、いわゆるウッドショックの状態となり、木材価格が高騰し黒字転換したことで、施設改修資金として積

み立てができるなど一定の成果が出ている。販売事業については、組合での原木取り扱量は年間約1万5千立方メートルであるが、町内での原木搬出量はおよそ3万立方メートルと推測され、約半分は町外へ流出しているという課題も浮き彫りとなっている。

まとめ

以上の調査により、長期的な森林づくりの政策と共有、また強固な町内事業体との共同・協力的体制づくり（新しい製品づくりなどの出口戦略）、山間地域での高性能林業機械の導入による機械化、搬出作業道の開設による生産性の向上とともに、林業従事者の確保・育成・定着が最も重要な課題である。

「梶原の森林を今後どうしていくのか」それは大変大きなビジョンであり、誰もがその目的を共有するとともに、着実に実行していかなければならないと考える。

今後、百パーセントは困難かもしれないが、私有林の森林整備について、行政は対応策をさらに講じるとともに、森林所有者が森林経営に関して意欲を持てるよう、長期的な施策を推進していくことが大切である。以上報告とする。

委員会報告

「高校の存続を町民と共に早急に議論せよ」

委員長 下元 秀俊
 厚生教育委員会 常務委員

構成委員
 副委員長 森田 呂弥 委員 中越 計清
 委員 土釜 清 委員 西川 慶男

● 調査の目的

本町にとって人口減少は大きな課題である。地域を支える若者の都市への流出や子供の出生率の減少に伴い、近い将来子供たちの人数が減少することが明白となっている。町の存続には、町内唯一の県立椿原高校の存続は欠かせないが、将来困難な時期を迎えることが予想される。先進地である白馬高校の取り組みを調査し本町の椿原高校の魅力化と地域政策にいかしていくことを目的として調査する。

● 調査の内容

〈調査先〉
 長野県白馬山麓事務組合
 及び白馬高校

〈概要〉
 白馬村は北アルプス後立山連峰の麓に位置し、面積189.4km²、人口8千397人のスキーなどウィンタースポーツを中心とした

山岳高原観光地であり、国内外から多くの観光客が訪れる村である。白馬高校は、スキーの強豪校として有名で多くのオリンピック選手を輩出している。

しかし、少子化や人口減少によって最盛期の半数まで生徒数が減少し、分校化、統合、募集停止という高校再編計画の対象となっていた。近隣の白馬村と小谷村は、「地域高校である白馬高校の存続は、白馬村、小谷村の地域としての存続に関わる大きな問題である」として、「白馬高校を存続させる会」を設置し検討を始めた。平成26年には、長野県教育委員会に「白馬高校の経営・運営に参加する地域案」を提出した。翌平成28年には、長野県教育委員会が地域ぐるみの支援に応じる形で「国際観光科」を新設し、生徒を全国募集することを決定した。さらに、全国でも初となる「自治体首長が委員として学校

「存続の岐路にあった白馬高校（長野県）再生への施策は、椿原高校にも参考になるはず」



実際の授業を見学

(1) 高校魅力化における目的の共有

学校運営に地域住民が参加するコミュニティースクールとして「白馬高校学校運営協議会」が設立され学校での取り組みや、公営塾、学生寮などについて会議を行っている。

(2) 「国際観光科」を設置
 平成28年に「国際観光科」を設置し全国募集を開始。恵まれた自然環境で学べると多くの県外生が入学した。

(3) 高校への両村の支援
 高校に対して両村からの毎年多額の支援を行っている。金額は、令和3年度は1億6千501万5千円で、その財源は特別交付税、基金、地方創生交付金、ふるさと納税を使ったクラウドファンディング等である。用途として多いのが学生寮費で1億3千815万3千円である（負担割合は白馬村約7割、小谷村約3割）。



北アルプス後立山連峰を望む

また奨学金の貸与を受けて大学等に進学し、村内の観光産業に就職した場合には返還への助成を行っている。(20万円×5年)

(4) 大学受験への対策
白馬高校公営塾「しろうま学舎」を設置して生徒の進路実現のサポートをしている。さらに令和3年度から、特進クラスを設置し4年制大学の一般入試対策に特化したサポートを行っている。

まとめ

(5) みらい協育サポーター
社会の体験を通して働くことの喜びや「なぜ学ぶのか」を考えるきっかけを作るために社会人講師の派遣や職業体験など地域内外の企業・団体に「白馬高校みらい協育サポーター」として登録してもらい生徒の未来を広げる支援活動に協力をいただいている。

地域の基幹である観光産業を支える人材を育成するという重要な役割を担う白馬高校が、「地域になくてはならない高校」として、特徴ある教育活動を今後も継続できるよう、白馬・小谷両村が協力し、可能な限りの支援を行うことを基本方針として、白馬山麓事務組合が担っている。
本町において、梶原



白馬高校で実施された施策に関する質疑応答

影響もあり、生徒募集も地域間競争が激しくなってくる。現状の取り組みだけでは生徒の確保は今後ますます厳しくなってくる。高校の存続は、本町での少子化対策、子育て環境のさらなる改善、職場づくり、小中高の連携、奨学金制度の

見直し、隣接町村との協議などまちづくりの重要な柱であることから、政策との戦略的連動が必要である。令和5年度には、県立高校再編計画の策定が始まる。あらためて梶原高校存続に向けて多くの町民と関係者で梶原高校の在り方を議論していくことが必要である。以上報告とする。

高校の在り方を考えることは町の将来像を考える好機である。これまでも市町村行政が公立高校にかかわってきたが、まちづくりの一環として考えることは本町にとって極めて重要なことである。
梶原高校の魅力化にはこれまでにも取り組んできており、その成果として1学年2クラスを維持してきているが、今後は、少子化の

全国で初めて「自治体首長が委員として学校運営に参加するコミュニティースクール」に指定された白馬高校では、地域資源や人材を活用しながら魅力ある学校づくりを行っている。



白馬高校での取り組みに耳を傾ける委員

議会にもデジタル化がやってきました！

会の案内も郵送したら結構ヒマがいるけど、タブレットは早い！



議会では、昨年9月議会からタブレットを使用したペーパーレス化を実施しています。

実際は、運用上まだまだ課題も多く試行錯誤しておりますが、四国で唯一選定された脱炭素先行地域として、積極的に無駄を省き環境に良い取り組みを行っていかねばならないと考えています。

❖ 閉会中の所管事務調査事項 ❖

各委員会は、3月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会 → 3月定例会の運営について
- 総務教育厚生常任委員会 → 福祉に関する件について
- 産業建設常任委員会 → 産業に関する件について
- 議会広報編集委員会 → 議会広報の発行について

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

愛媛県鬼北町
松本 君恵様

あとがき

「百年後に残るホテルを目指す」。木造を主体の12室程度として、年を経るごとに木の良さが深まる建物にしたい。5棟の離れもセットで造れたらいいと考えている。町長は12月議会定例会において、こう説明された。子や孫のことを思い、受け継いでいくためにはいろいろと忙しくなりそうだ。

先日、大崎光雄さんのお力で『茅葺き伝』が発刊された。環境の町には、古くて新しい茅葺きの屋根が似合いそうだが…。町政が施行され今年で57年目となる。先人にも、受け継ぎたい想いがあったはずだ。その想いも乗せ、町民に愛される「雲の上」であってほしい。皆に愛される施設であれば、百年くらいはあつという間ではないだろうか。

森田 昌弥 記

